ISSN　1880－6864

鳴門教育大学
学校教育研究紀要

No.37

自閉スペクトラム症のある児童生徒に対するライフキャリア教育の検討 ―支援要点の確認と授業への活用に視点をあてて―	1	大谷　博俊
複数の文筆家の文章を対象に視写の学習方法を行う効果 ―１人の大学院生を対象とした事例研究を通して―	7	江川　克弘
小学生のワーキングメモリに関するチェックシートの開発と実践	15	高見　寛子，池田　誠喜
参加型ワークショップを支えるファシリテーターの専門性に関する実践研究 ―徳島県家庭教育推進員の養成とスキルアップ―	25	木村　直子
日本の学校教員の自己肯定感と教職享受感を高める	35	山崎　勝之
学校予防教育「トップ・セルフ」の効果評価方法 ―本当の自己肯定感ならびに学校と職場適応の観点から―	45	山崎　勝之，内田香奈子
高校生が課題研究を行う上での困難感とその解決に向けた支援指導	53	寺島　幸生
理科専攻の教員志望学部学生における身近な熱現象に関する内容理解度	57	寺島　幸生
保育者と学生のカウンセリングマインドの見方・考え方に関する調査 ―テキストマイニング分析を通して―	61	箕浦　　凛，勢井香菜子，湯地　宏樹
大学における教師教育者の役割意識に関する探索的検討 ―「教師の教師」と「研究者」の役割に焦点をあてて―	71	川上　綾子，姫野　完治，長谷川哲也，益子　典文
コロナ禍における教育実習の実際から	83	石村　雅雄，藤森　弘子
視覚障害関連授業における用語認知度の推移	91	高原　光恵
知的障害特別支援学校でのタブレット端末活用の動向	99	辻　　歩実，小倉　正義

鳴門教育大学　地域連携センター

鳴門教育大学学校教育研究紀要　投稿要項

H26．6．1一部改正
H27．5．1一部改正
H29．4．1一部改正
H31．4．1一部改正
R 4．4．1一部改正

1．鳴門教育大学学校教育研究紀要（以下「紀要」という。）は，主として次の投稿論文を掲載する。
⑴　地域連携センター（以下「センター」という。）の客員研究員研究プロジェクト（以下「研究プロジェクト」という。）の研究成果である未発表の投稿論文
⑵　センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
⑶　その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
2．紀要に執筆できる者は，次のとおりとする。
⑴　本学の専任教員及び附属学校園教員
⑵　本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
⑶　その他センター所長が特に認めた者
ただし，⑴⑵⑶ともに，共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし，第一著者は本学の専任教員，附属学校園教員，研究員，客員研究員，研究補佐員，大学院生（連合大学院生を含む。）のうちいずれかとする。
3．投稿論文の区分は，次のとおりとする。
⑴　問題提起と研究成果・理論的考察を備えた，比較的まとまったものを原著論文とする。
⑵　研究の経過報告，調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
4．第一著者として投稿できる論文数は，1執筆者につき2編までとする。
5．投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては，センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
6．投稿論文の著作権及び公開については，次のとおりとする。
⑴　紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし，鳴門教育大学に対して，継続的に複製権，公衆送信権を許諾することとする。
また，投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合，一切の責務は投稿者が負うものとする。
⑵　論文は原則としてウェブページで公開するものとし，掲載が認められた時点で，著者の許諾があったものとして取り扱う。なお，特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は，理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し，非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
7．執筆要項は，原則として次のとおりとする。
⑴　原稿は，和文あるいは英文によるものとする。原則として MS-Word あるいは一太郎を用いる。印刷サイズは A4 版の縦おきで，上下左右の余白は各々 25mm，20mm，15mm，15mm とし，文と図，表，写真，文献等を含めて作成する。和文，英文ともに刷り上がりページ数は，原則として原著論文は 10 ページまで，研究報告は 6 ページまでとする。
⑵　和文原稿は，常用漢字，新かなづかいで横書きとする。冒頭には，タイトル，タイトル（英文），著者名，所属と所在地，著者名（英文），所属と所在地（英文），抄録（200 ～ 400 字），キーワード（重要な順に 3 ～ 5 語），アブストラクト（英文，200 ワード以内），キーワード（英文）を 1 段組で，それ以降の本文，引用文献等は 2 段組（25 字× 48 行× 2 段組，段間は 10mm 程度）で記す。
本文の書体は明朝体（9pt）を標準とする。句読点は，原則として「，（コンマ）」と「。（句点）」に統一する。1 桁の数字は全角，2 桁以上の数字は半角，アルファベットは半角を基本とする。
⑶　英文原稿は，冒頭に，タイトル，著者名，所属と所在地，アブストラクト（200 ワード以内），キーワード（重要な順に 3 ～ 5 語）を 1 段組で，それ以降の本文，引用文献は 2 段組（48 行× 2 段組，段間は 10mm 程度）で記す。
本文の書体は Times（9pt）を標準とする。
⑷　氏名をアルファベット表記する場合の姓名の順序は，和文及び英文原稿ともに，母国の標記の順序（例：日本語の場合は YAMADA Taro）とし，姓は大文字で表記する。
⑸　本文の見出しの番号の付け方は，和文原稿ではゴシック体（9 pt）全角で，英文原稿では Arial（9 pt）で，次のようにする。
大見出し　ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し　アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し　片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
Ⅰ．…
1．…
1）…
2）…
3）…
2．…
⑹　図表
図（写真を含む）や表は，鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ，1 枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き 2 ページを超えないものとする。必要な場合は 1 段組にしてもよい。
図題は図の下に，和文原稿では図 1，図 2…のように，英文原稿では Fig. 1，Fig. 2…のように記す。また，表題は表の上に，和文原稿では表 1，表 2…のように，英文原稿では Table 1，Table 2…のように記す。図題，表題ともに，和文原稿はゴシック体（9 pt），英文原稿では Arial（9 pt）で，中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし，挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお，カラー写真の掲載を希望する場合には，その印刷実費は第 1 著者又は研究代表者の個人（研究費）負担とする。
⑺　参考文献及び引用文献
1）本文中での文献の引用は，英字，記号，数字を半角とし，以下のとおりとする。
（例）GAGNE（1970b）は……
前田（1969）は，……。
……と述べている（GAGNE, 1970b）。
……と述べている（前田，1969）。
2）文献は，投稿論文の最後に一括して，著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字，記号，数字を半角とし，以下の形式を標準とするが，他の形式を用いてもよい。
①　論文の場合は，著者名，発表年，表題，雑誌名（書名），巻（号），ページ。
（例）鳴門太郎（1900），日本の学校，日本教育，16（1），pp.1 − 10.
鳴門太郎：「日本の学校」，『日本教育』，Vol.16，No.1，pp.1 − 10，1990 年.
「日本の学校」，鳴門太郎，『日本教育』，第 16 巻第 1 号，1 − 10 頁，1990 年.
②　単行本の場合は，監編著者名，出版年，書名，出版社，ページ。
（例）鳴門太郎編著（1900），日本の学校，日本出版，pp.1 − 200.
鳴門太郎編著：『日本の学校』，日本出版，1 − 200 頁，1990 年.
『日本の学校』鳴門太郎編著（日本出版，1990 年，全 200 頁）
③　外国文献の単行本の場合は，編著者名（出版年），書名，出版社所在地，出版社，ページ。
（例）NARUTO, Taro (1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
⑻　注記は必要な場合には本文の最後，文献の前に一括して記述し，本文中では該当箇所の右肩上付で，注 1），注 2）のようにして示す。
⑼　研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については，文献の後に付記として，当該研究プロジェクトの年度，研究題目を明示する。
8．投稿は，文書ファイルを，教務部学術情報推進課教育連携企画係までメール（chiiki@naruto-u.ac.jp）にて提出する。
9．校正は著者が責任を持って行い，誤植の訂正のみとし内容の加筆，修正，削除等は受付けない。
なお，著者校正は初校のみとする。
10．別刷の費用は，個人（研究費）負担とする。

2022 年度　学校教育研究紀要編集委員会委員

葛　上　秀　文　　地域連携センター所長
阪　根　健　二
谷　村　千　絵

2022 年度　鳴門教育大学学校教育研究紀要　№ 37

発 行 年 月　　2023 年 2 月
編　　集　　鳴門教育大学地域連携センター
発　　行　　鳴門教育大学地域連携センター
〒 772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島 748
電話 088-687-6101　ＦＡＸ 088-687-6100
印　　刷　　（協）徳島印刷センター
〒 770-8056　徳島市問屋町 165
電話 088-625-0135　ＦＡＸ 088-622-0734

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No. 37, Feb, 2023

Contents

Original Papers

1 OTANI Hirotoshi
A Study of Life Career Education for School Children with Autism Spectrum Disorders : Focusing on identifying key points of support and their use in the classroom

7 EGAWA Katsuhiro
The Effect of Copying the Works of Multiple Famous Authors: Case Study of a Graduate Student

15 TAKAMI Hiroko and IKEDA Seiki
Development and practical research of a check sheet for elementary school children's working memory

25 KIMURA Naoko
Practical research on the expertise of facilitators supporting participatory workshops
— Training and Skill Improvement of Tokushima Home Education Promoters —

35 YAMASAKI Katsuyuki
How can self-esteem and enjoyment to work be enhanced for school teachers in Japan?

45 YAMASAKI Katsuyuki and UCHIDA Kanako
Methods to evaluate the effectiveness of the school-based prevention program "TOP SELF": In terms of authentic (autonomous) self-esteem and children's and teachers' adaptation to schools

53 TERASHIMA Yukio
Difficulty for High School Students in Performing Research Projects and Support Instruction for Solving Their Difficulties

57 TERASHIMA Yukio
Content Knowledge on Familiar Thermal Phenomena among Undergraduate Pre-service Teachers Majoring in Science

61 MINOURA Rin, SEI Kanako and YUJI Hiroki
Text-mining analysis of kindergarten teachers' and students' perspectives on the counselling mind

71 KAWAKAMI Ayako, HIMENO Kanji, HASEGAWA Tetsuya and MASHIKO Norifumi
An Exploratory Study of the Role Awareness of Teacher Educators in Universities
— Focusing on the roles of "teacher of teachers" and "researcher" —

83 ISHIMURA Masao and FUJIMORI Hiroko
A research for Teaching Practice on the Disaster of Covid-19

91 TAKAHARA Mitsue
Changes in recognition of terms related to visual impairment

99 TSUJI Ayumi and OGURA Masayoshi
Review of the studies on the utilization of tablet computer in special schools for children with intellectual disabilities

Published by
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto City
Tokushima, 772-8502, JAPAN